

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年9月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103045
法人名	医療法人 萩風会
事業所名	グループホーム谷山ゆめ
所在地	鹿児島市下福元町1719-3 260-8032
自己評価作成日	平成28年8月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた市郊外にあり、平屋でゆっくりとした造りです。庭も広く緑豊かな中庭では、花々や果樹が育ち四季の移ろいを楽しむことができます。居間には仏壇が置いてあり、朝夕お参りの習慣がある方には喜ばれています。一人ひとりの生活のペースを尊重し、我が家のようにゆっくりと過ごして頂けるグループホームです。食事は御利用者様のレベルに合わせて調理をし、美味しく召し上がれるよう工夫しています。母体が病院であり、24時間先生がすぐに往診に来てくださいます。職員に看護師も多く、利用者の体調管理や異常の早期発見が行えることで御家族にも喜ばれています。

- 当ホームは市街地にあり、住宅に囲まれた緑あふれる環境に位置している。平屋建てで中庭におよそイングリッシュガーデン風で数種類のバラが色とりどりに咲きほこり利用者や家族や来訪者、職員の心を和ませてくれている。気候が良い暖かな日は、利用者がウッドデッキで日光浴を楽しんでいる。
- 地域とは、日常的にまた、積極的に交流をしており認知症の理解も厚くホームの行事や運営推進会議などの取り組みにも参加をもらっている。町内会の班長を務め、地域の防災訓練や清掃活動に参加したり、地域からはソーメン流し、餅つき、そば打ちなどの地域の行事への参加をして欲しいと要請されるなど信頼関係も深く地域団体との協力関係もあり相互に交流を図っている。
- 母体の医療機関とは、24時間医療連携が図れ看護職員も多いので夜勤者の安心感につながっている。リハビリを希望される利用者も多く、家族の協力をもらいながら外来へ通院する利用者もいる。
- ホームは、本人の生活のリズムに合わせたケアを提供することを目標にしており家庭的な雰囲気があり、地域のふれあいを大切にひとりひとりの個性を尊重するといったホームの理念に沿った支援をしている。職員は、毎日業務日誌にて理念の達成状況を記録し職員全員で確認し理念に沿ったケアの実践を図っている。管理者は職員教育にも熱心で研修会への参加や資格取得を勧めるなどしている。職場環境も整い提案や要望がしやすい事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念①家庭的な雰囲気②地域とのふれあいを大切に③ひとりひとりの個性を尊重するとし、毎日の業務日誌に実践できたかを記録するようにしている。	理念は、掲示され契約書・重要事項説明書に記載して利用者、家族に説明するとともに、「業務日誌」に理念の達成事項を設け毎日理念に基づいたケアが実践できているか検証し、常に理念を意識したケアを提供し、職員全員に周知徹底されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、今年は班長を務めている。回覧板を回したり、総会や掃除に参加する。近所の方とはよく挨拶を交わし、花や野菜を頂く等良好な関係を築いている。	地域とは良好な関係にあり、町内会の役職を担ったり、総会への出席や地域の清掃活動に参加している。毎年クリスマス会には、地域の子供達や住民も参加し交流している。また、地域の方々の要望に応え運営推進会議で出前講座を開いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	会議室を利用して在宅マッサージの方に講座を開催してもらい地域の方に参加して頂く。また、運営推進会議の際に困難事例など取り上げ対応策など紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	国際大学の講師の方にも会議に参加して頂くことで学生さんのボランティア訪問に繋がったり、町内会の方から溪流会への参加を勧められ行事に地域での行事に参加することで地域との交流につながっている。	やむを得ず身体拘束（ベット柵）を用いることの弊害についてメンバーで話し合いその結果、現在は取り付けていない。会議は、利用者、家族、地域の方々、職員とゲスト（在宅マッサージ・国際大学ボランティアなど）も参加され多種多様な講座を通じて地域の活性化にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>毎年介護相談員の方に来て頂き利用者や家族の不満や悩みを聞いて頂いている。生活保護担当者の方とも毎月連絡し合っている。市主催の研修会にも参加する。</p>	<p>生活保護受給者も多く、成年後見制度利用者、金銭管理（社協）利用が各1名ずつおられ、それぞれの担当者と面談し、情報交換したり協力関係を築いている。職員は、包括主催の研修会にも積極的に参加し自己研鑽している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>現在身体拘束をしている方はいない。必要時は本人、家族へ説明し、同意書を頂き、経過記録をつけている。毎月拘束委員会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、目標達成計画に掲げて転倒、転落の危険回避について職員間で議論し解決策を探り検討した結果、目標を達成することができている。ふいに出て行かれる方が数名おられるが、互いに顔の見える関係が出来ており地域の方や、法人職員の協力体制もあり無事に帰宅されている。日々、注意や見守りを徹底し利用者が自由に過ごせる暮らしを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年内部研修にも虐待について取り上げ、職員の言動も虐待につながるため注意するようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社会福祉協議会が行っている自立支援事業を利用している方が1名、後見人制度を利用している方が1名おり、内部研修に毎年取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時はグループホームの在り方や特色を説明し、利用者、家族と一緒に検討する。改定等は文書にて家族に配布し、必要時は同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の関わりの中で要望を聞いている。家族からは、面会時や電話、担当者会議や年に2回の家族会の際に意見を頂く。毎年の外部評価でたくさんの家族からの意見を頂けることで改善に努めている。	利用者からは、日々の暮らしの中で直接意見や要望などを聞き取るようにしている。家族も面談時や推進会議、家族会、行事を通じて要望などを聞いている。また2ヶ月置きに「ゆめ便り」を郵送して利用者の行事への参加や暮らしぶりを見ていただきお便りに家族からの要望や意見を出していただくようコメントしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、事務長、管理者は出席している。意見は言いやすい環境で、職員が働きやすいように検討している。利用者のケアについて職員の意見を活かしたり、職員の気づきや提案を運営に反映させている。	毎月の職員会議には運営者も参加して意見交換し、全員で話し合い検討している。個別の面談などはしていないが、運営者は意見を出しやすい雰囲気作りに努めており、職員も忌憚なく意見や提案など言える関係性が築けているため、職場環境も良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得すれば資格手当がつき、有給休暇も取りやすい職場である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内を見て職員に合った研修に参加してもらっている。研修は勤務で行くこととし、研修報告書の記入、内部研修時に他の職員へ研修内容を報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、母体の病院の医師であり、往診に来たりボランティアでマッサージ師を連れて来たりする。ボランティアの紹介や地域での研修に参加させてもらえることで同業者との交流ができている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用者、家族の話をよく聞き、話しがしやすい環境、関係作りに努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族の言動に注意しながら、家族の立場で考えて助言し、よい関係が築けるように努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	いろいろな施設の特徴を詳しく説明して、見学を勧めている。体験入所もして、そのまま入所される方もいる。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	職員も家庭のことや今までの生活環境などを話し、相談したり相談されたりしながらお互い支えあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、変化があればすぐに家族へ連絡を行い、意見や要望を聞く。家族が忙しいときは職員と病院受診したり、買い物に行くなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2か月に1回お便りを作成し、一人ひとりにあったコメントを記入し、遠方の家族にも郵送している。今までよく買い物に行っていた場所やお墓参りなど家族にも協力を頂きながら関係が継続できるよう支援している。	友人の方の来訪や知人、友人の面会も多い。家族には、墓参り、リハビリの通院ほか外出支援を協力いただいている。職員も墓参りや買い物と一緒にいたり、電話の取次ぎをするなど人や場所との関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握して、職員が間に入り楽しく過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方のほとんどが病院であり、加療中に面会に行ったり、家族をお見受けした際は声をかけたり、近況を尋ねたりして継続的な関係を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手く言葉では自分の意思を伝えられない方もいるため、表情や言動を見て、これまでの生活歴を振り返りながら本人の立場で考えるようにしている。	認知症の日常生活自立度も高くなり、意思疎通が難しい方もあるが、コミュニケーションを取り、共に過ごすなかで本人の思いに触れ感じ取り、その思いを汲み取るようにしている。職員は、家族とも本人の思いを共有するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで情報収集をする際にどの様式を利用するかいろいろ検討してきたが、1つの様式にして情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に記録を行い、大きな変化があれば申し送り事項に記録をして、職員が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回の職員会議で職員の意見を聞き、担当者会議で主治医、家族、利用者の意見や要望を聞いている。3か月毎にモニタリングを行い、必要に応じて見直しをする。	計画作成担当者は職員から直接アセスメントを実施しているが、月1回の職員会議では、介護計画原案を作成するため、目標設定やサービス内容などについて職員から意見を聞きとり本人の現状に即した介護計画を作成し、3ヶ月1回モニタリングし見直しも柔軟におこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に1日の様子やケアの実践、利用者の反応、気づきを記入し、毎日の朝夕の申し送り時に情報を共有している。必要時は計画の見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の病院からの往診、かかりつけ医への受診、精神科医の往診、歯科往診などいろいろなサービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生、高校生の職場体験、大学生のボランティア訪問、ゴスペルやハーモニカのボランティア訪問、訪問カットの利用など地域の資源を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に母体の病院や同法人の精神科を希望されれば主治医となる。本人、家族の希望するかかりつけ医があれば連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	本人の希望するかかりつけ医となっており、職員と家族が交代で受診支援をしている。週1回診療内科医が往診するなど協力医療機関や訪問歯科診療を受け入れ適切な医療が受けられるよう支援している。正看護師が多く夜勤者の安心感を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携加算をとっている。看護職員が多く、ほぼ毎日看護師がいるため、必要時は主治医と連絡を取り病院受診をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際はこまめに面会に行き状態を把握する。病棟看護師や相談員の方ともこまめに連絡を取り、1ヶ月以内に退院できるように努める。1か月以上の入院になると退所も考えないといけないため、今後のことを早めに相談している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>担当者会議の際に家族へ急変時や看取りの希望を聞くよにしている。看取りをホームで希望される場合は状態を見て、ホームでできることを説明して、看取りの同意書を頂いている。</p>	<p>重度化や終末期における指針があり、家族に対して重度化し急変した場合などにホームでできることについて十分に説明している。また今後、意思確認書にて同意を得るようにする予定である。母体の医療機関とは24時間医療連携が図れ、医療ニーズが高い利用者の対応にも医療機関などと連携し柔軟に取り組んでいる。看取りの経験もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、それに沿って動くようにしている。内部研修には気道確保や心臓マッサージの仕方を取り入れ実践できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災頭巾やネームプレート、非常食は準備しており、町内会長にも運営推進会議のときに災害時の協力をもらえるようお願いしている。年に2回は防災訓練を行っている。</p>	<p>年2回消防署立ち合いの防災訓練とは別に、自主訓練を実施している。今年8月は、地震のDVDを見て防災意識を高めたり、地域の防災訓練に職員が参加した。消防への通報対応がスムーズに出来なかったことなどや、利用者の避難誘導の課題を推進会議で報告するなど改善策を検討し、より一層地域と連携し協力関係が築けるように考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに鍵をかけて入る方もいるため、必要時は声をかけ中に入る。部屋に入るときはノックしたり、なにか失敗したときなどプライドを損なわない対応を行っている。	利用者を敬い尊厳を持って相對するようにしている。言葉使いも丁寧な心がけ失礼のないよう対応している。排泄時は、羞恥心に配慮したケアに努め安全も確保しつつ清潔保持ができるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に買い物に行ったり、入浴前に衣類を選んだりする。なにか食べたい物がないかなどこまめに声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に行きたいときは付き添い、食べたいメニューがあれば献立に取り入れる。朝ゆっくりと寝ている方は目が覚めてから朝食を摂ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2か月に1回訪問カットを依頼し、好みの長さにカットしてもらう。好みの色や着やすさを考えながら衣類やシーツ類を購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、食べられないものはその方だけメニューを変えるなどしている。外食に出かけたり、お誕生日にはお寿司を取ったり、その方が好きな献立にしている。	トロミ食、ミキサー食の方もおられ個別に食事形態を工夫し食事を提供している。その日の朝や誕生日にリクエストを聞いて要望に応えたり出前や外食を楽しんでいる。下膳や食器洗いなどを手伝われる方もあり、買い物に行かれる方もある。料理の品数が多く手作りのおやつを楽しみにするなど利用者の食への満足度も高い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎日食事、水分量をチェックする。利 用者の状態に合わせた食事形態で提供 している。水分量が少ない方には、ポ カリスエットや野菜ジュースなど飲め るものを飲んでもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	年に1回無料の歯科検診を受け、治療や 口腔ケアが必要な方は往診を依頼して いる。毎食後1人ひとりに応じた口腔ケ アを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録し、食事やお茶の 前後に声かけしてトイレに案内する。 リハビリパンツを嫌がる方は安心パン ツを紹介し使用している方もいる。	羞恥心やプライバシーに配慮しなが らなるべくトイレで気持ちよく排泄 ができるようケアしている。安心パ ンツを活用し布下着の感覚を好まれ る方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、食事の工夫や水 分を多く摂れるように声かけしてい る。また、その方にあった飲み物や下 剤の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	2～3日に1回入浴できるようにしている。入浴が嫌いな方もいるため、体調や気分のいい日に入浴できるよう声かけを行い気持ちよく入浴できるように支援している。	入浴の順番にこだわりがある方もおられるが公平に入浴ができるよう配慮している。家族と温泉に行かれる方もおられる。移動に支障がある方は、シャワーキャリーを活用し安全面に配慮し入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の習慣がある方は昼寝をしてもらう。夜間眠れないときは職員とホールで過ごしたり、毎週往診に来られる精神科の先生に相談して薬を処方してもらうなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診連絡表に処方された薬の記録をして、薬の説明書も一緒綴じている。新しく処方された薬は業務日誌に記録し職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む方、洗面台をきれいにする方、他者の話をよく聞いてくれる方など1人ひとり役割がある。また、食事前の体操やレクリエーションをして楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診後の外食を楽しみにしている方は職員とランチに行く。自宅にいるときに買い物に行っていた場所に出かけたり、外に行きたいときは散歩に出かける。お墓参りなどは家族の協力を頂いている。	毎日近所を散歩したり買い物に行かれる方がおられ、初詣や花見に行かれる方や外泊される方がおられる。外来受診し職員と外食を楽しまれる方もおられるが、最近車いす移動の方も増え外出も個別になってきている。職員は、家族の協力をもらいながらなるべく外出が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少ない額のお金を管理され、職員に買い物を頼まれる方もいる。ほとんどの方は職員が管理し、必要に応じて買い物をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持参している方もいて、家族といつでも話をしている。遠方の家族からはよく手紙が届く方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は天井が高く採光を取り入れ、温度や湿度に配慮している。居間には仏壇があり、毎日お茶とご飯をお供えしており朝夕お参りする方も多い。廊下にソファを置き、ゆっくりと過ごせる空間づくりをしている。</p>	<p>共有スペースの天井は高く天窓から差し込んでくる自然の明かりが優しく射している。仏壇があり毎朝お参りされる方がおられ落ち着いた家庭的な空間である。利用者がソファでくつろぎ談笑したりうたた寝をしたりしている。4、5年前に消防署の助言があり、デッキにスロープを設置した。窓からは、手入れの行き届いた庭が垣間見え移り行く自然を肌で感じ満開の花々が利用者や職員の心を和ませている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファを置き、自由に過ごせる居場所がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>介護ベッドを備え付けてある。寝具類や鏡台、家具、テレビなど馴染みのものを部屋には置いてもらっている。位牌を置いている方は毎日お供えをしている。</p>	<p>パズル絵、習字が掲示してあり、本、ラジカセ、位牌、家族の写真、寝具、椅子やテーブルなど使い馴染んだ好みものを持ち込み本人が安心して暮らせるよう配慮している。転倒防止のためセンサーマットを活用されている方もあり、整理整頓され掃除が行き届いた居室である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自室の入り口には名札をつけたり、トイレや浴室にはプレートをつけている。廊下やトイレには手すりがついていて安全に生活できるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない